ぼ　く　た　ち　の　休　日　　【高学年1－1】

－　生活と結びつけて考える指導　－

(1)　主題名　よりよく生きるために〔１－１〕

(2)　ねらい　日々の生活の中で，常に自分を反省するとともに，思慮深く節度ある生活をしようとする気持ちを育てる。

(3)　資料名　「ぼくたちの休日」

(4)　授業の展開例

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　　意　　点
導入	1　休みの日の過ごし方を思い出す。	○休みの日にはどんな過ごし方をしていますか。 ・公園で遊ぶ。 ・習い事に行く。	○自分たちの生活の様子を思い出すことにより，資料に関心をもたせる。
展開	2　資料を読み，圭太の行為について話し合う。	○友だちと出会ったときの圭太の気持ちを考えてみましょう。 ・楽しそうだな。 ・友だちに注意しよう。 ○スケートボードをカード１０枚と交換した圭太の気持ちを考えましょう。 ・どうせ捨ててあるのだから。 ・自分のものにしたい。 ・軽い気持ちで交換した。	○実物のスケートボードを前にした役割演技をする中で，それぞれの気持ちを考えやすくする。 ○圭太の行為の何が悪かったか考えることにより，節度のある生活とは，どんなことか気付かせる。
	3　その日のことを振り返る圭太の気持ちを考える。	◎なかなか寝付けなかった圭太はどんなことを考えているのでしょう。 ・順平がとめたのに，聞かなかった。 ・明朝，公園にもどしておこう。	○ワークシートや道徳ノートなどに，今の自分の気持ちを書かせることにより，価値の自覚を図るようにする。
	4　学んだことで，今後の生活に生かせることはないか話し合う。	○今日の学習で，自分の生活に生かせることはどんなことですか。 ・これくらいならいいだろうという軽い気持ちで行動してはいけない。	○自分の生活にじっくり向かい合わせながら考える。無理に発表を求めない。
終末	5　教師の話を聞く。	・これからは，よく考えて行動していきたいな。	○ねらいに関した身近な作文等を読むことにより，価値を印象深いものにする。

ぼくたちの休日

ぼくの名前は、圭太。いつも元気いっぱいスポーツ大好き人間。勉強は、ちょっと苦手かな。ちょいちょいいたずらをしては、先生に注意されている。そんなぼくの親友が、順平。ぼくと違って、なぜか先生のお気に入り。いたずらもするけれど、けっこうまじめだからな。

こんな二人が、いつも遊び場にしているのが、近くの公園。結構広くて、野球ができる広場もあるし、遊具もいっぱいある。休日にそこに行けば、友だちがいつも何人かいて、遊び相手には不自由しない。

ある日曜日、いつものように二人で公園に行くと、何人かの男子がわいわい騒いでいた。「何だろう？」ぼくと順平は急いで行ってみた。

「どうしたんだい？」

と、ぼくが聞くと、そこにいた勇一が、

「スケートボードが落ちていたんだ。」

「まだ乗れそうなんでみんなで誰から使うか決めていたんだ。」

と言った。すると、順平が、

「落とし物は、交番に届けましょう。」

と、半分ふざけながら、でも、半分本気の声で言った。しかし、この意見は、たちまちみんなの声でとり下げられた。

「けっこう古いし、誰かが捨てていったんだよ。」

「だいじょうぶだって。」

順平は不安そうな顔をしながらも、結局、みんなに押し切られる形で、スケートボードに加わった。ぼくも、一緒に遊んだ。

夕方になって、スケートボードをどうするかということになった。最初に見つけた勇一が、

「おれ、持って帰ろうかな。」

と言った。ぼくも欲しくなって、

「おれも、欲しいな。」

と言った。すると、勇一が、

「カード十枚ならゆずってやるよ。」

と言った。ぼくは、

「やめとけよ。」

という順平の声を無視して、カードを勇一にわたして、家に持って帰った。

その夜、ぼくは、なかなか寝付けなかった。こっそり物置に隠したスケートボードと、「やめとけよ。」といった順平の顔が、何度も浮かんできた。

活用に生かすための実践報告

◎　「ぼくたちの休日」

1　主題の設定

・日常生活の中で，児童が遭遇しそうな事象，「公園にあった持ち主の分からないスケートボードを使って遊んだり，それをカードと交換して家に持ち帰ったりという主人公の行動」を取り上げ，行為の前に十分考えて配慮を尽くそうとする心，また，そういった行為の後に，これでよかったのか見つめ直そうとする心の働きをこの資料で考えさせたい。そして，自己中心的な欲求を抑えながら，自分を律した節度ある生活をしようとする心の働きを児童から導き出したい。

・この資料は，長期休業前の学級活動の時間との関連を考えて扱えば効果的である。

2　指導過程の工夫

・休みの日にどのような過ごし方をしているか，事前にアンケートを取っておくと，児童の考えが出やすい。

・実際にスケートボードやカードを用意し，児童の興味を引きつけ，資料に入るとより身近な問題として考えやすい。また，その道具を使って，展開の前段で役割演技をさせると，臨場感のある場面設定ができ，多様な発言が引き出しやすい。

・日頃から，児童の行動や児童の日記を記録し，終末の事例として用いると価値の実践化に結びつけやすい。

3　発問の工夫

・「なかなか寝付けなかった圭太は何を考えたのだろう。」という発問で，これでよかったのかと自分を見つめ直そうとする気持ちをしっかり引き出し，自己中心的な欲求を抑えながら，自分を律し，節度ある生活とはどういうことかしっかり考えさせたい。

4　児童の反応（授業後の感想）

【日頃から，自分を律して生活しようとしている子】

・ぼくだって，同じ公園にいたら，もしかしたら遊んでしまうかもしれないし，持って帰る圭太に対して，何も言えないかもしれないけれど，自分が悪いと思ったら，素直に反省することができるのが大切だと思う。

【時々，友だちの意見に流されてしまう子】

・似たようなことがあり，つい引きずられてやってしまったけど，今日，いろいろ考え，人の意見を聞いて，よく考えて行動することが自分には足りなかったので，これからは，よく考えて行動したい。

【よく考えずに行動することが多い子】

・先生に注意されるようなことを，ぼくはよくするけれど，これぐらいならいいだろうと思うことが多かった。圭太も同じだと思う。夜，眠れなかった気持ちがよく分かる。

5　実践者からの一言

・この資料は，実際に起こった出来事をもとに作成したので，児童の反応がよく，しっかり考えることができた。

・似たような経験のある児童が，他の児童のいろいろな発言により，傷ついたり，発言しにくくなったりしないように，日頃から学級の雰囲気をしっかりつくっておくことが大切である。

（高美が丘小学校　吉岡智世）